

2008年3月期 中間決算説明会

2007年11月15日

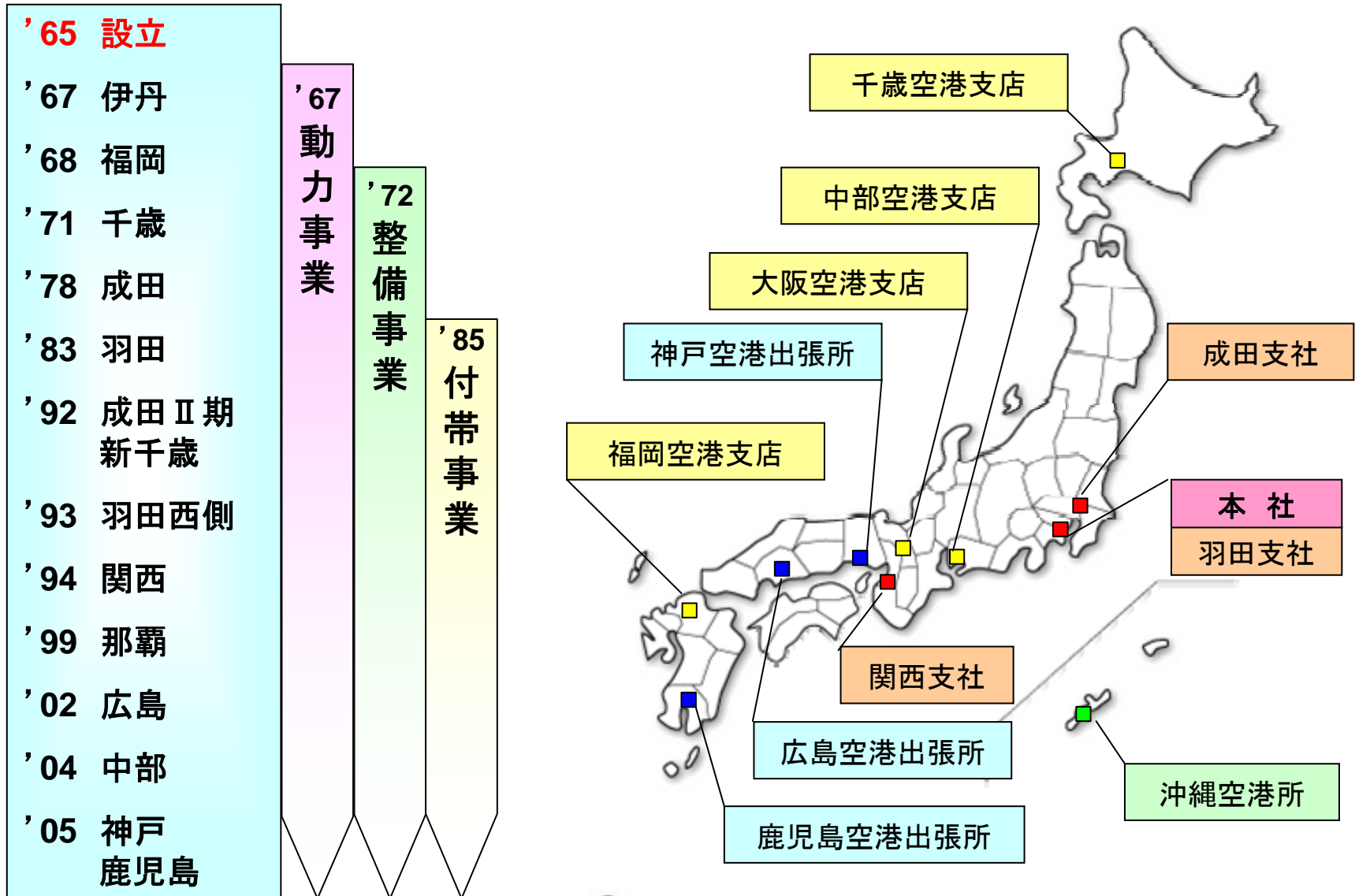


株式会社 エージーピー
AGP CORPORATION

目 次

- 当社事業の概要
- 2008年3月期 中間期活動概要(連結)
 - ・業績の推移(当期計画)
 - ・開示情報について
 - ・各事業の概況と今後の取り組み
- 中間期業績報告(連結)
 - ・業績の概要
 - ・通期業績見通し

当社発展の軌跡

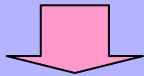


当社の事業概要

動力事業



APU (Auxiliary Power Unit)



GPU (電力供給)

整備事業



手荷物搬送設備 (BHS)



旅客搭乗橋 (PBB)

フードカート事業

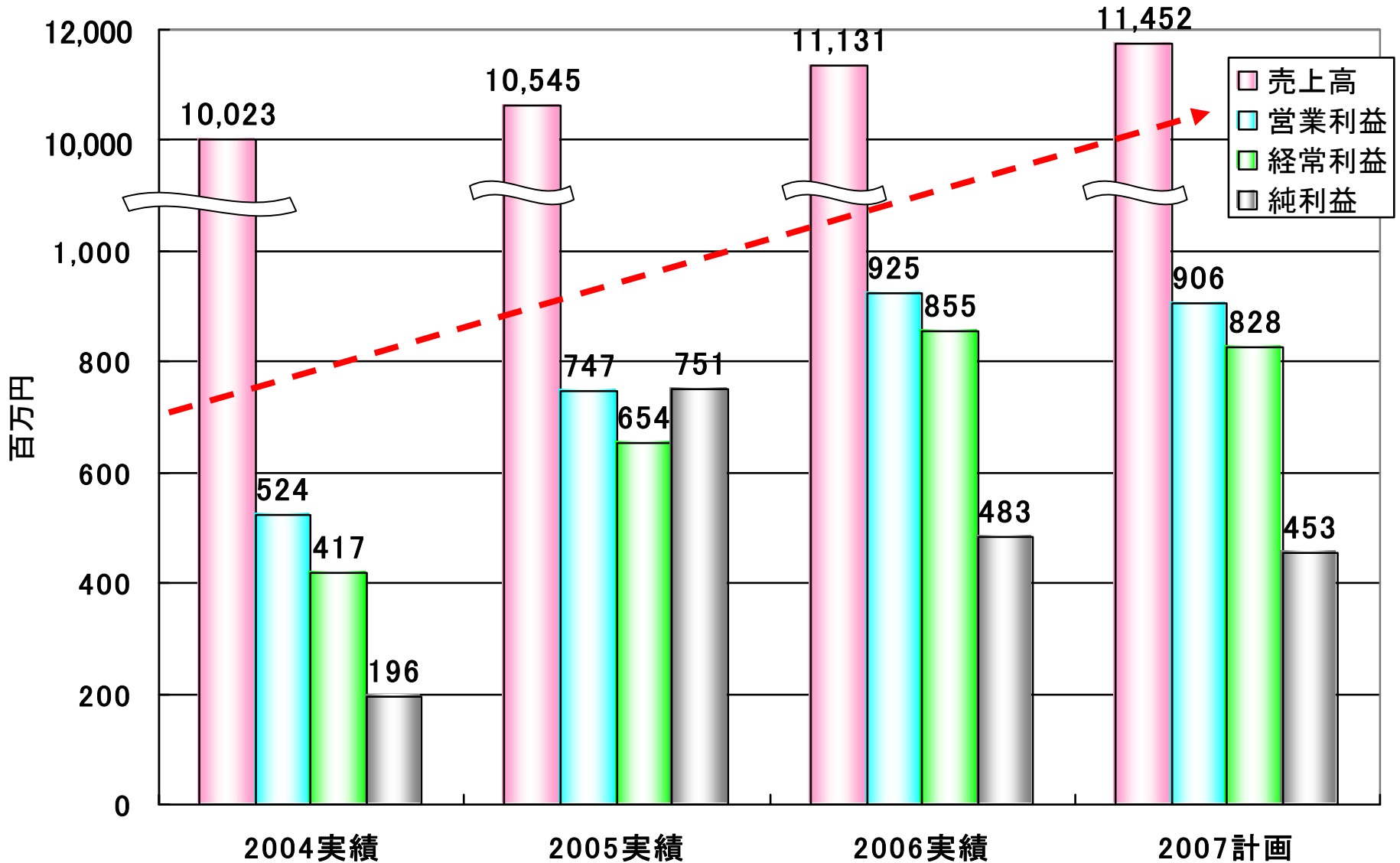


(当社製) 保冷・加熱カート



(他社製) 温冷配膳車

業績の推移(連結)



開示情報について

- 10月25日付で、下記のとおり業績予想(個別)の修正を実施しました。

中間期(個別)業績

(単位:百万円)

	当期予想	当期実績 (=修正)	増加率
売上高	5,189	5,309	2.3%
営業利益	235	325	38.3%
経常利益	194	289	49.0%
中間純利益	105	159	51.4%

参考

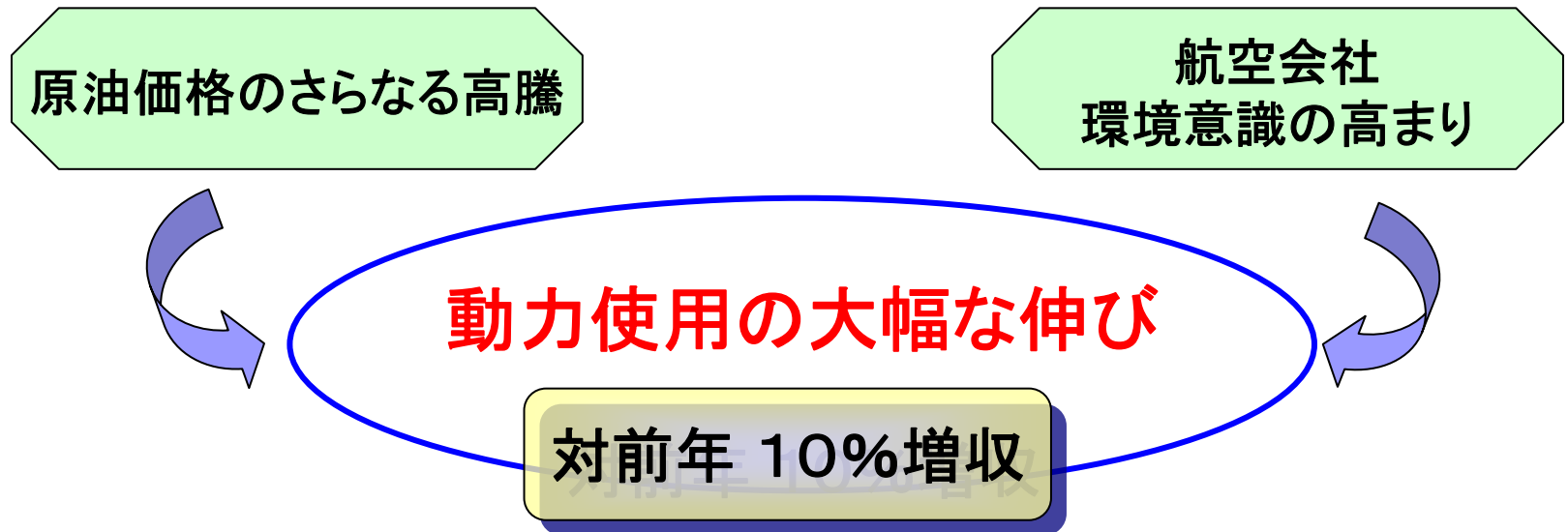
中間期(連結)業績

(単位:百万円)

	当期予想	当期実績	増加率
売上高	5,383	5,507	2.3%
営業利益	249	292	17.4%
経常利益	208	256	23.0%
中間純利益	119	136	14.6%

- 10月30日付で、親会社および主要株主の異動について発表しました。

動力事業の概況と今後の取り組み①



JAL社は4月から、GPU使用の運用方法を変更
GPUの使用時間を、出発の**20分**前まで→**10分**前までに延長！！

【今期の特徴】

電気の使用増に加え、夏場のエアコンの使用が大幅に増加した。

『電力収入』：対前年 117百万円(5%)増

『エアコン収入』：対前年 155百万円(65%)増

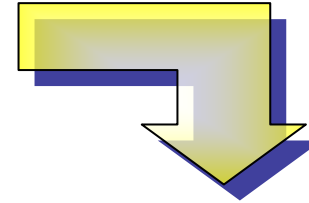
動力事業の概況と今後の取り組み②

トピックス

2007年7月

動力供給設備の増強を実施

- ・成田空港貨物地区: 7スポット
- ・羽田空港東側整備地区: 4スポット

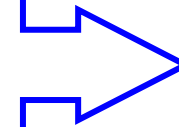


下期の計画

2008年1月	鹿児島空港	1スポット増設
2008年2月	熊本空港	4スポット展開
2008年4月	沖縄空港	1スポット増設

今後の課題

新型航空機(A380, B787)に対する、
電力設備の増強(180KVA化)



空港別に検討中

通期業績見通し

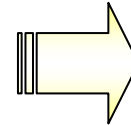
上期同様好調に推移し、期初計画を上回る見込み。

整備事業の概況と今後の取り組み①

諸設備の受託業務量拡大

(受託業務量の拡大に伴う、人員の増)

諸設備の改修・更新工事受託増



対前年 3%増収

下期も、提案型営業に力を入れ、増収を目指す。

通期業績見通し

上期同様堅調に推移し、期初計画を若干上回る見込み。

整備事業の概況と今後の取り組み②

空港内特殊設備の保守管理

手荷物搬送設備: BHS



旅客搭乗橋: PBB

空港内建物・諸設備の保守管理



格納庫

付帯事業の概況と今後の取り組み①

中部空港向け航空機用電源装置の販売増
航空会社向け航空機用冷暖房車の販売増
ハイジャック防止装置の受託業務拡大

フードカート

顧客の導入計画の先送りや買い控えの影響で
販売減となった

付帯事業全体では、
対前年 14% 増収

通期業績見通し

上期と同様にフードカートの販売不調が続き、
厳しい事業環境が続くと予想される。

付帯事業の概況と今後の取り組み②

フードカート事業

- ①フードカートの販売台数が、2400台突破。
- ②今年度から新商品の『IHホテルパンカート』の販売開始。
- ③今年度中に、新たな新商品を開発し販売予定。



- ①国の法制度改定の影響を受け、病院・介護施設は苦しい経営状況となり、設備投資活力が縮小。
- ②クックサーブ(温冷配膳車)からクックチル(当社の再加熱カート)への移行遅れと、期待している買い替え需要が先送り。



- ①食の安全・サービス・コストダウンの追求がある限り、クックチルシステムの需要は拡大傾向に。
- ②近い将来のカート販売チャンスに備えるため、ここ数年は売り上げ見込みに応じたフレキシブルな人員体制へと移行する。

保冷・加熱カート

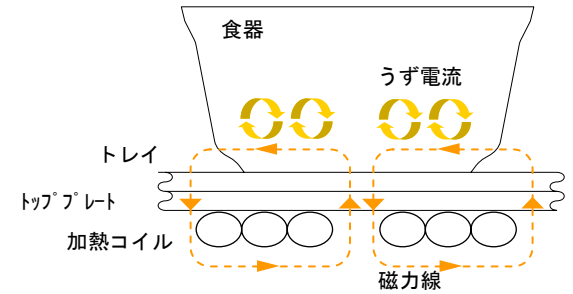


EH式



IH式

IH加熱の原理



・加熱コイルの磁力線で食器に発生したうず電流により料理を加熱する。

加熱カート

NEW!



IHホテルパンタイプ

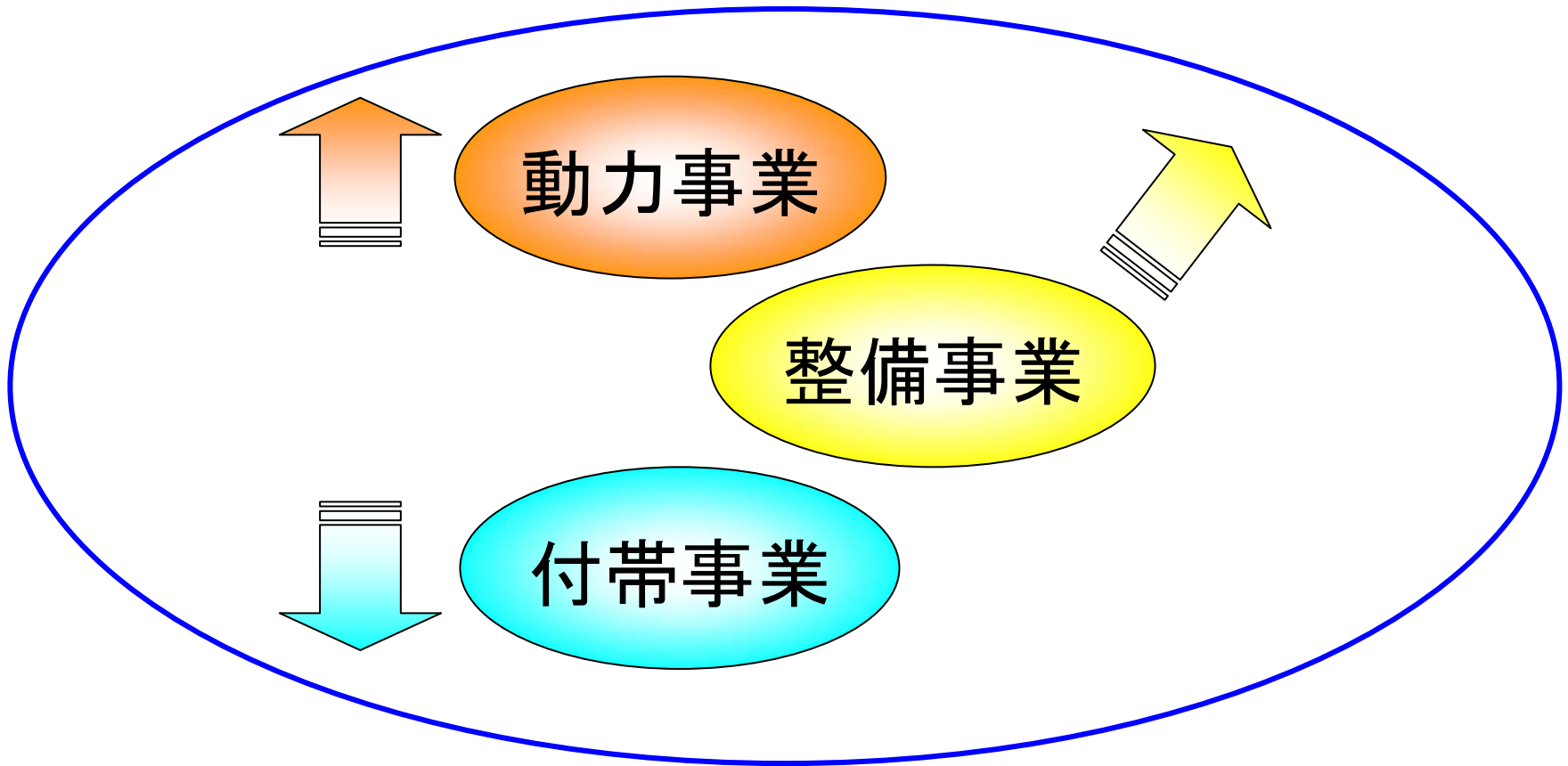
保温カート



ラックタイプ



通期業績見通し



全体では、期初計画の達成を見込む。

2008年3月期 中間業績報告

2008年3月期 中間業績

(単位:百万円)

	前期実績	当期実績	対前期比 増減
売上高	5,098	5,507	409
売上総利益	725	703	△22
販管費	403	410	6
営業利益	321	292	△29
営業外損益	▲37	▲36	1
経常利益	284	256	△28
特別損益	▲3	▲2	0
税引前中間純利益	280	253	△27
中間純利益	152	136	△15

(注)百万円未満は切り捨てにより表示

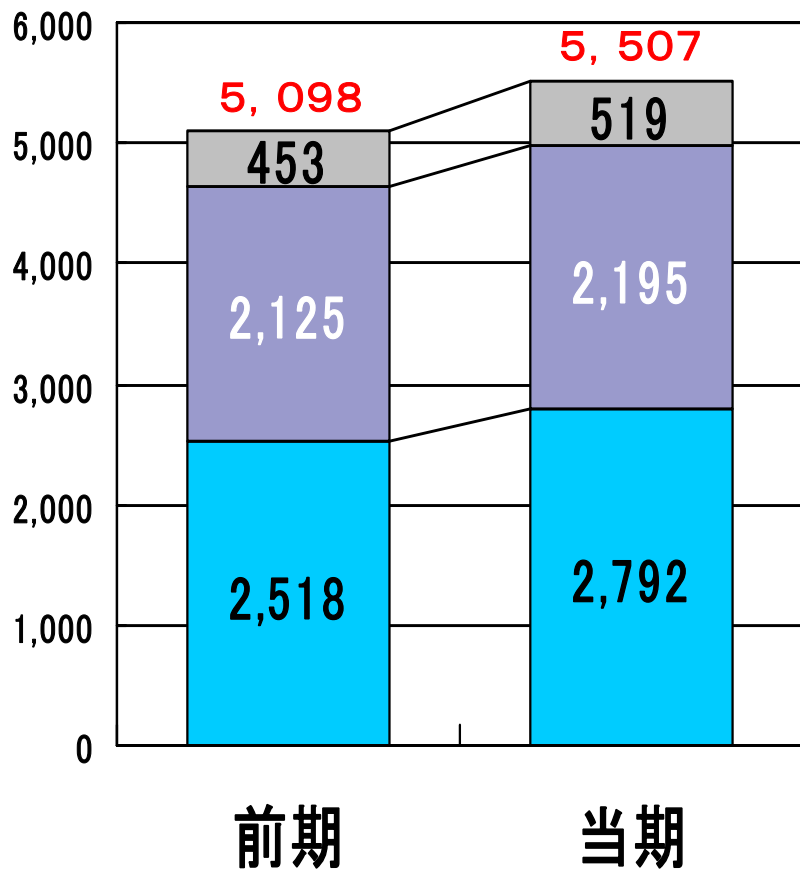
売上高 (中間期計)

5,507百万円

前期比 409 (108.0%)

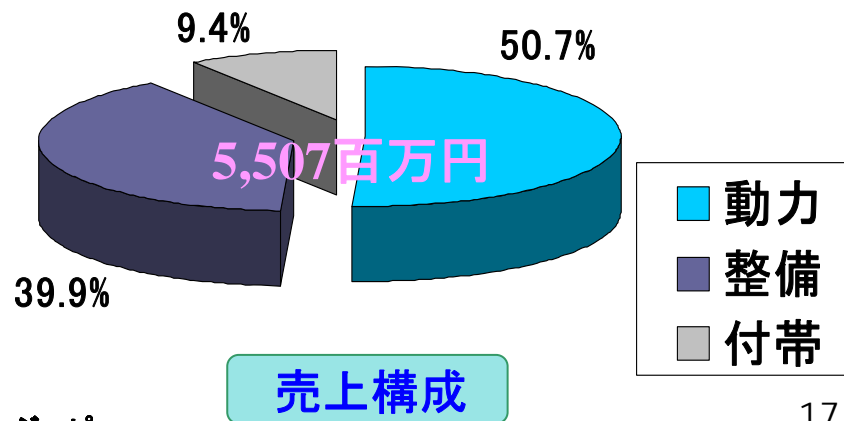
(単位:百万円)

■ 動力事業 ■ 整備事業 ■ 付帯事業



<増要因>

動力事業	+273
整備事業	+69
付帯事業	+65
計	409

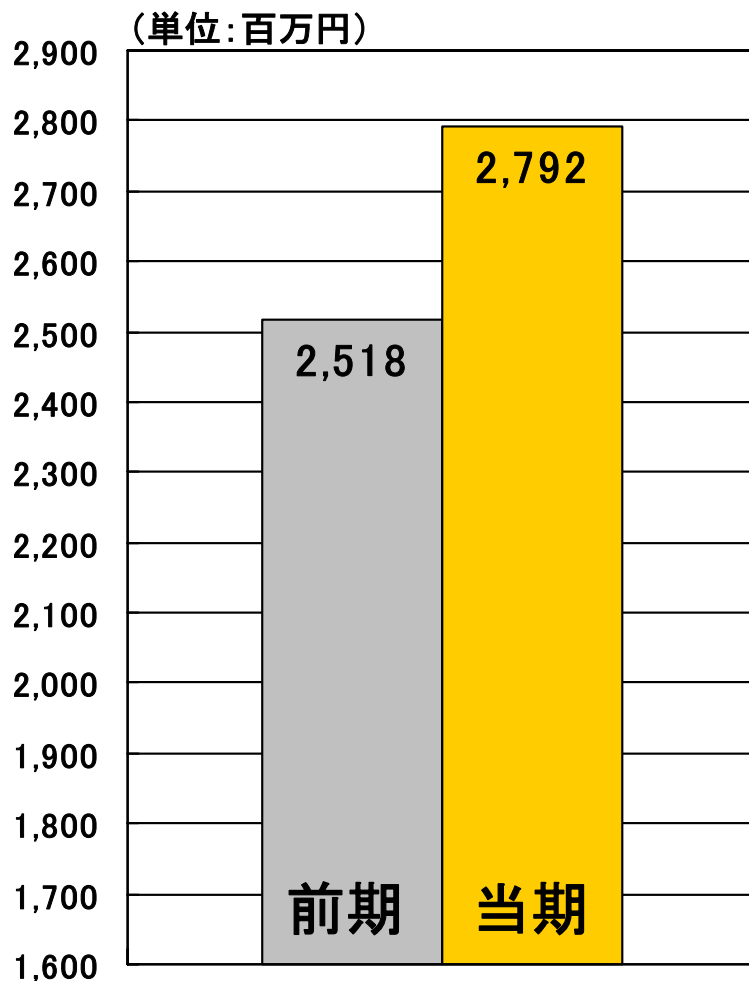


(注)百万円未満は切り捨てにより表示

売上高 ① 動力事業

2,792百万円

前期比 273 (110.9%)



<主な増要因>

(増加)

羽田	+177	} 供給増
成田	+53	
関西	+42	

【航空会社別】

JAL 14.2%増 (+133)

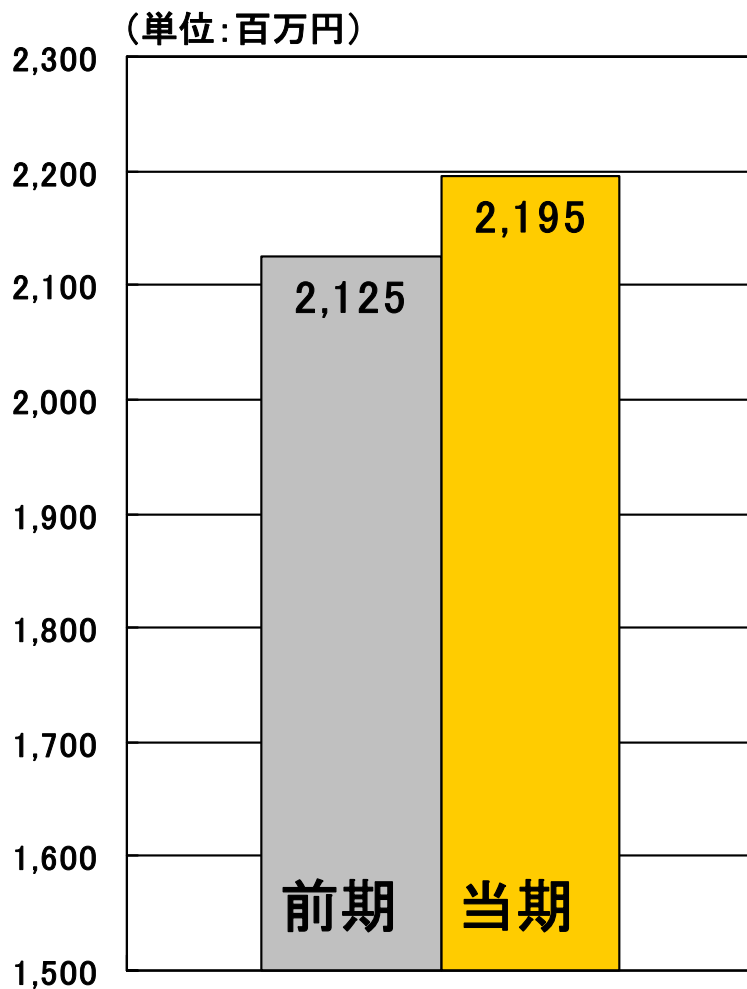
ANA 17.3%増 (+119)

(注)百万円未満は切り捨てにより表示

売上高 ② 整備事業

2,195百万円

前期比 69 (103.3%)



<主な増減要因>

(増加)

成田 +59

羽田 +23

BHS改修工事等の増

(減少)

沖縄 $\Delta 15$

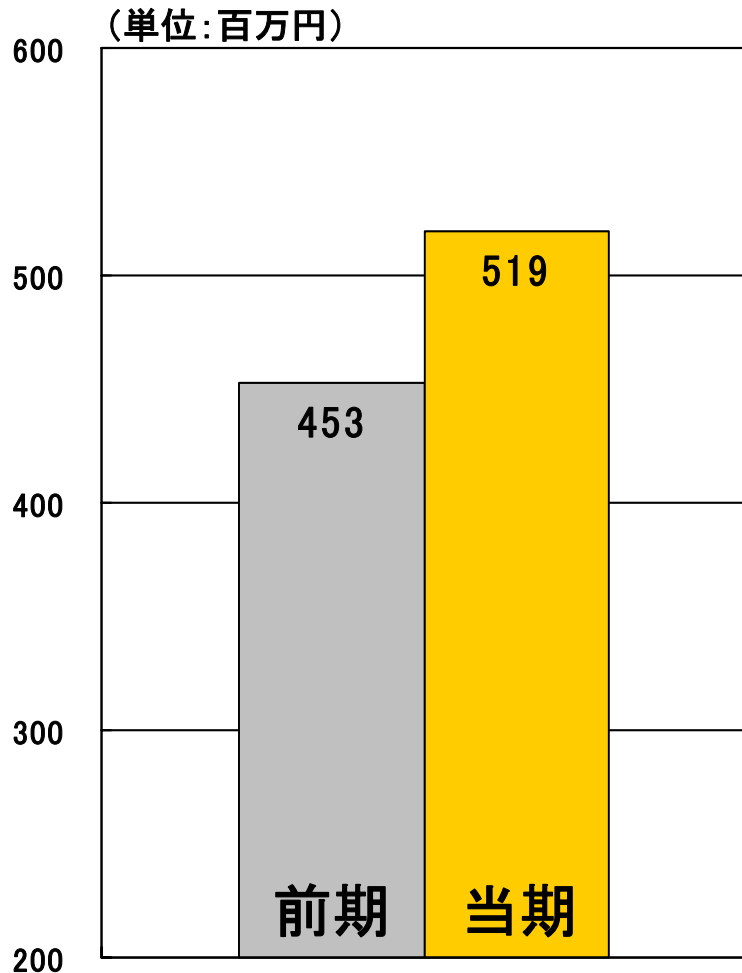
ホテル保守契約の減

(注)百万円未満は切り捨てにより表示

売上高 ③ 付帯事業

519百万円

前期比 65 (114.5%)



<主な増減要因>

(増加)

本社動力事業部

+125 { 航空機用電源装置の販売
航空機用冷暖房車の販売

成田 +32 ハイジャック防止装置業務拡大

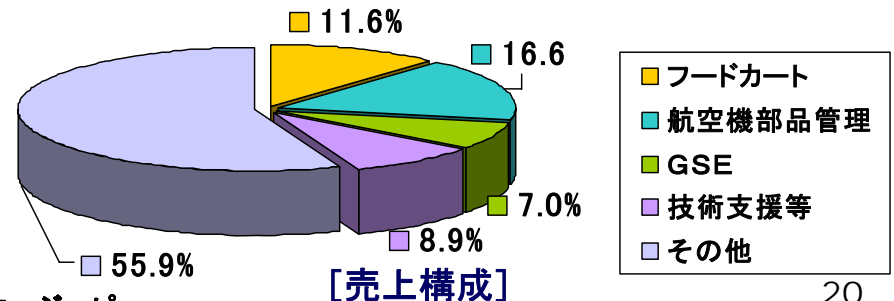
福岡 +15 冷凍冷蔵庫の販売

(減少)

フードカート事業部

△85 フードカート販売

関西 △19 バンコク技術支援



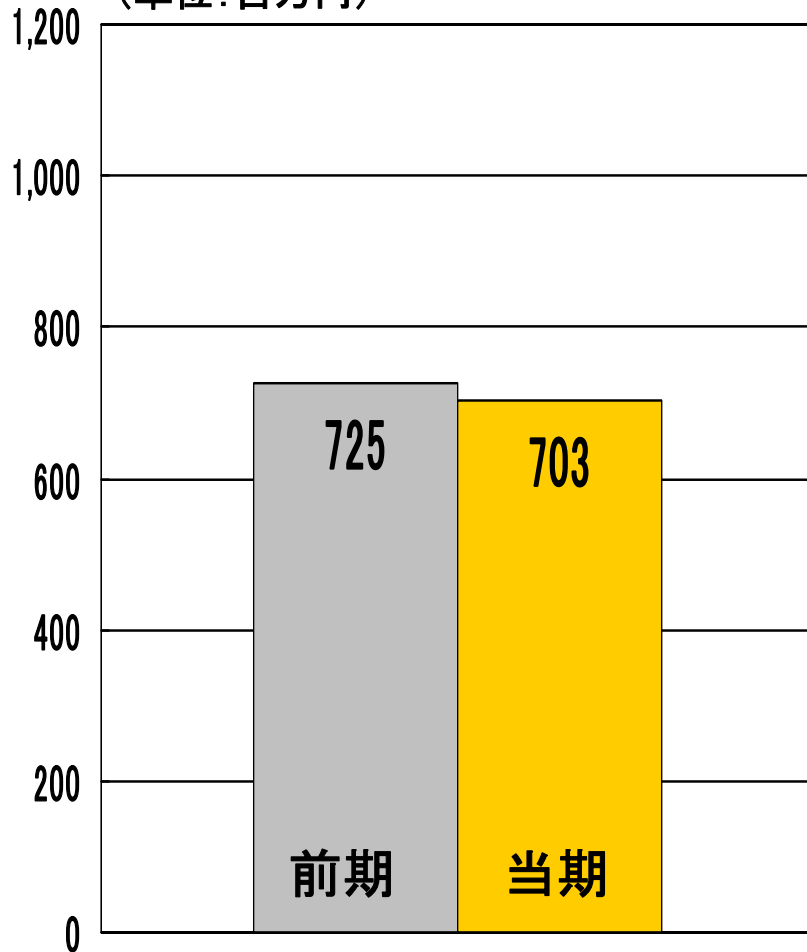
(注)百万円未満は切り捨てにより表示

売上総利益（中間期）

703百万円

前期比 $\Delta 22$ (96.9%)

(単位:百万円)



<セグメント別 主な減要因>

[動力事業 19]
[整備事業 $\Delta 30$]
[付帯事業 $\Delta 10$]

減価償却費 +56
(制度変更分を含む)

労務費 +55

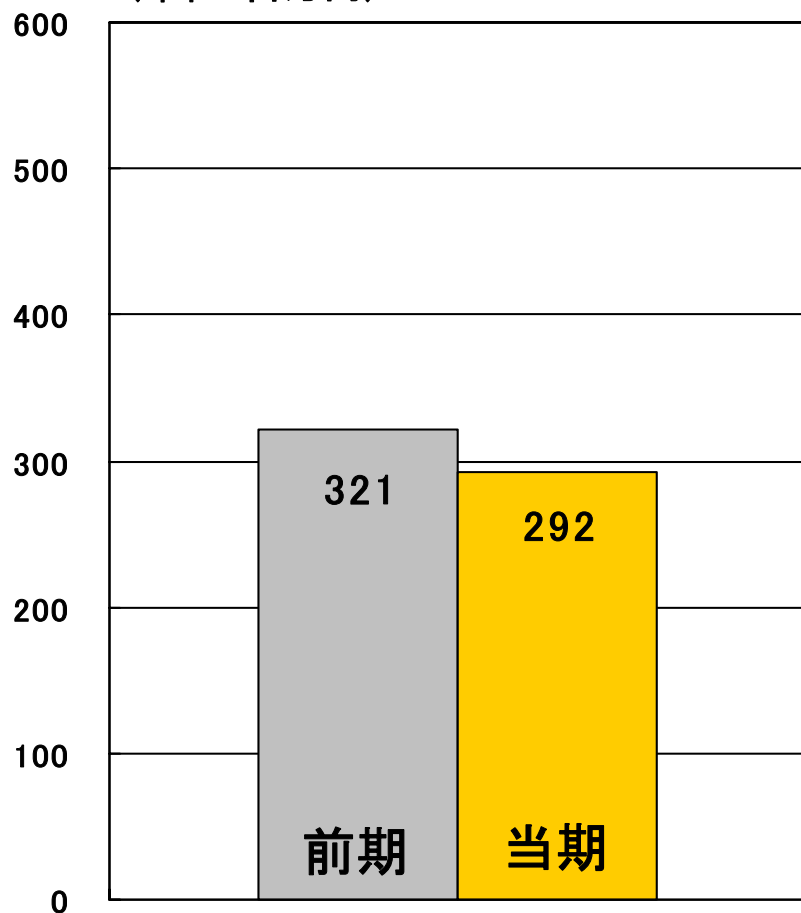
(注)百万円未満は切り捨てにより表示

営業利益（中間期）

292百万円

前期比 $\Delta 29$ (90.9%)

(単位:百万円)



<減要因>

売上総利益の減 $\Delta 22$

販売費および
一般管理費の増 $+6$

(注)百万円未満は切り捨てにより表示

営業外損益と経常利益（中間期）

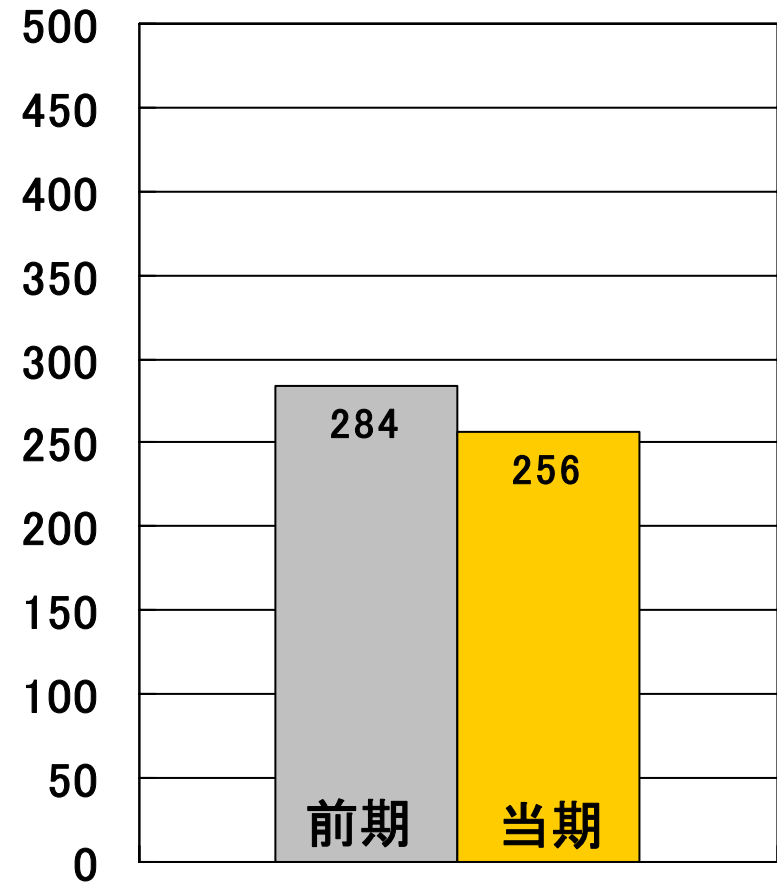
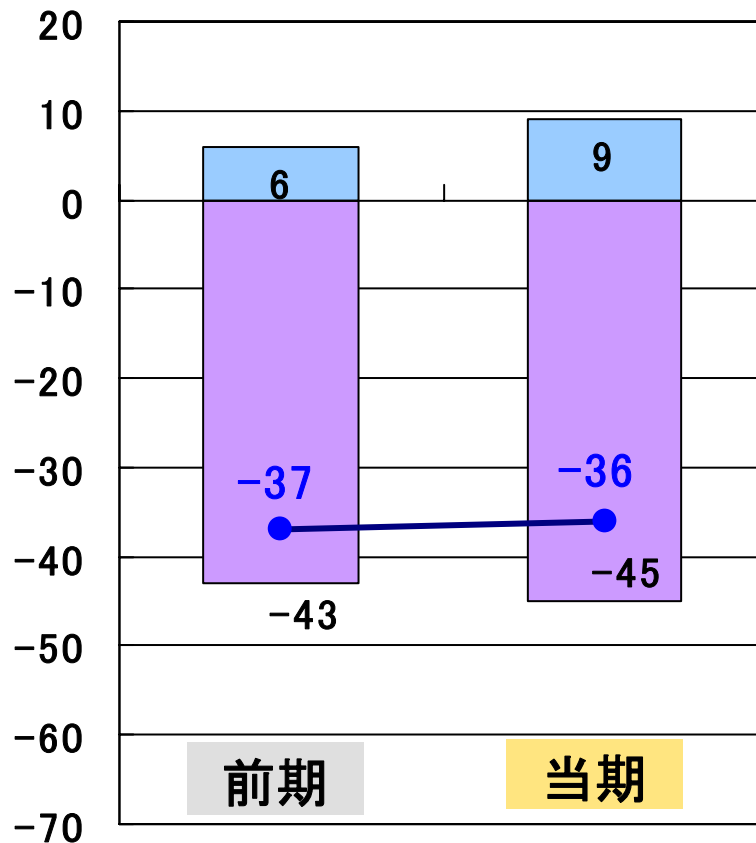
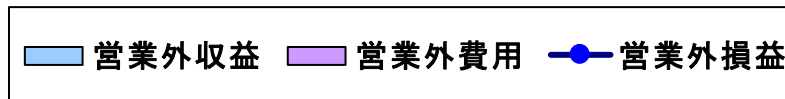
営業外損益

▲36 百万円 前期比 +1

経常利益

256 百万円 前期比 △28

(単位:百万円)



(注)百万円未満は切り捨てにより表示

2008年3月期 中間業績

(単位:百万円)

	前期実績	当期実績	対前期比 増 減
売上高	5,098	5,507	409
売上総利益	725	703	△22
販管費	403	410	6
営業利益	321	292	△29
営業外損益	▲37	▲36	1
経常利益	284	256	△28
特別損益	▲3	▲2	0
税引前中間純利益	280	253	△27
中間純利益	152	136	△15

(注)百万円未満は切り捨てにより表示

2008年3月期

通期業績見通し

2008年3月期 売上高（見通し）

11,452百万円

前期比+321

（単位：百万円）

セグメント	売上高	要 因
動力事業	5,200	・原油の更なる高騰、環境意識の向上により引き続き好調に推移
整備事業	4,933	・設備の改修、更新工事等の受託は計画どおりに推移
付帯事業	1,319	・動力設備機材等の販売・技術支援業務は堅調 ・フードカート販売は、顧客の導入計画先送りや買い控え等厳しい環境で推移
合 計	11,452	

2008年3月期 通期業績予想

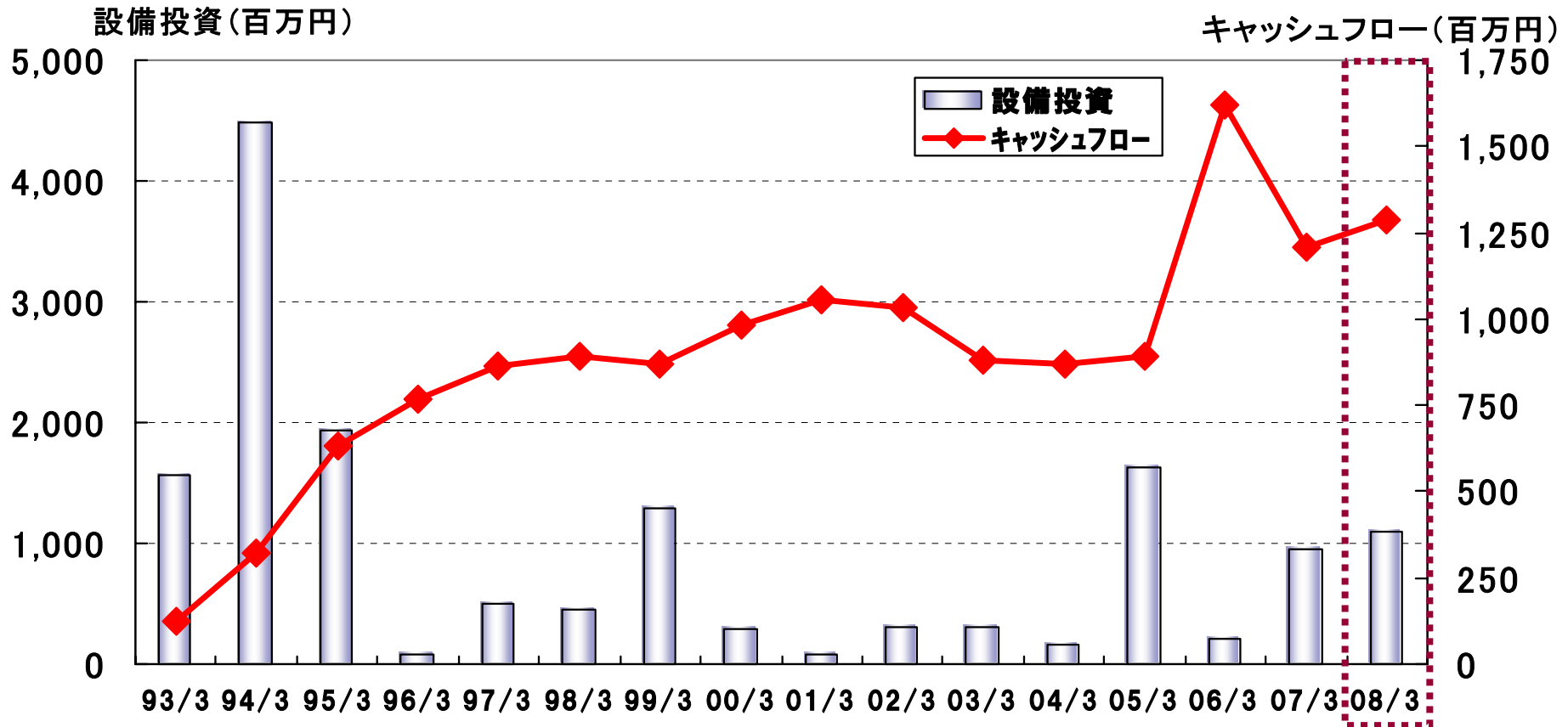
(単位:百万円)

	前期実績	当期予想	対前期比 増 減
売上高	11,131	11,452	321
営業利益	925	906	△19
経常利益	855	828	△27
特別損益	▲4	▲7	△3
税引前当期利益	851	821	△30
当期純利益	483	453	△30

(注)百万円未満は切り捨てにより表示

設備投資とキャッシュフロー

'93/3 新千歳・成田Ⅱ期増設 '94/3 羽田第1PTB新設 '95/3 関西新設 '99/3 那覇新設
'03/3 広島新設 '05/3 羽田第2PTB新設 '06/3 神戸・鹿児島新設 '07/3 羽田南ピア



(注)00/3より連結決算を開始、93/3～99/3は単独ベース

キャッシュフロー＝「当期純利益」＋「減価償却費」

(注)百万円未満は切り捨てにより表示

本日は、弊社決算説明会にご参加いただき
ましてありがとうございます。

本日配布いたしました資料に記載されている
将来の業績予想は、経営環境の変化などに
伴い予想あるいは目標対比が変化し得ることに
ご留意ください。

お問合せ先

株式会社エージーピー 総務部 広報・IRグループ

電話:03-3747-1631

FAX:03-3747-0707

URL: <http://www.agppgroup.co.jp>

(会社案内ビデオがご覧いただけます)

